

## ＜第3回長井市スマートシティ推進協議会で発言のあった意見等の実施状況等＞

資料 1

| No | 主な意見                                                                                                                                                                       | 現状                                                                                                                                                                                            |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | ドローンは消防の現場でも導入しているところがあるが、人員について、誰が操作するのか、現場で人が割かれることを考慮し、当地域ではまだ現実的な話に至っていない。<br>しかし、災害時にドローンを有効に活用できるといった話を聞き、消防側での検討とともに、ドローンの普及についても進めていただきたい。                         | 令和5年11月に、NTT e-Drone Technology社を講師とした「ドローン活用に係る操作研修会」を実施し、市担当課職員だけでなく長井警察署、西置賜行政組合消防本部にもご参加いただいた。今年度中に実技を中心とした研修会の実施を検討しているところ。                                                              |
| 2  | スマートロックシステムについては非常に便利。長井市以外にも普及していけば、さらに利便性の高いシステムになる。                                                                                                                     | スマートロックシステムはデジタル田園都市国家構想交付金（マイナンバー活用横展開事例創出型）を活用しているが、同交付金は「他の地域への横展開に関する協力」を要件としているため、問合せや視察などの要望に応じて対応したい。令和6年6月には、東京ビックサイトで開催された「自治体・公共 week」に同システムの紹介ブースが設けられ、全国の自治体への広報に協力している。          |
| 3  | DXコンテストについて、長井市内でスマートシティのたくさんのデータが収集されているので、多くの方々にデータを提示していろいろな分野に活かしていただきたい。                                                                                              | 公開にあたっては、誤解や混乱を招くことがないよう、データの正確性やデータの示し方を十分に精査する必要がある。今年度中をめどに、公開可能なデータから開示していけるよう検討していきたい。                                                                                                   |
| 4  | ビックデータを反映させた改善は非常に良いこと。市営バスは今泉駅の利用者が多く、列車からバスに乗り換える方が多いことがわかる。しかし、今泉駅前に行くバスの本数が限られているため、列車の時間帯とリンクするような他の路線や、今泉駅に回る路線が増えると良い。                                              | 今後の事業展開の参考とさせていただき、データの収集と分析を行いながら路線の最適化に向けて引き続き検討していきたい。また、令和6年度に、国交省「地域公共交通確保維持改善事業費補助金」の採択をうけて開始する「長井市自動運転社会実装推進事業」（資料6参照）と併せて、最適化を進めていきたい。                                                |
| 5  | 昨年8月3日の豪雨では道路冠水による通行止めで迂回が必要になったが、そういった際に市民が周辺状況を把握できるようなシステムを構築していただきたい。また、ライブカメラや防犯カメラを様々なところに設置していただき、見ることであれば、将来も安心して住めるのではないかと感じる。                                    | 今後の事業展開の参考とさせていただく。令和5年度より河川の11ahカメラ監視（資料2参照）についてNTT東日本と連携し全国でも先駆的な実証を開始している。高画質で遠隔監視ができる見込みであるため、多用途での活用を検討したい。<br>なお情報公開については、R6.3にリニューアルした市HPのコンテンツの一つとしての公開を検討したい。                        |
| 6  | 7月31日のドローンを活用して実験のやり方は、クマが逃げる方向などが瞬時に判断でき、捕獲従事者の安全面でも非常に有効な手段だと感じた。<br>また、シカ、イノシシについては、冬期間であればもっと簡単に発見できるのではないかという意見も出ており、機会があればテストしていただきたい。                               | 令和6年2月に、猟友会協力のもと、ドローンを活用した冬季間のイノシシ対策の実証実験を行った。サーマルカメラや赤外線カメラによって、上空からの映像を確認しながらイノシシの足跡を調査でき、有用性が確認できた。<br>なお、有害鳥獣対策のカメラ増設を計画しており、ドローンと併用することで猟友会の活動における人的被害リスク回避につながるものと考えている。引き続きご協力をお願いしたい。 |
| 7  | ウイルスの進入により混乱したり情報が抜かることがあるので、データ管理はしっかりしていただきたい。また、人口の増減マップや、子どもの移動範囲、ナンバーの分析などは業務上今すぐ欲しい情報。事故防止の対策や子どもの見守りの対策に有効活用するため、ぜひ提供いただきたい。                                        | 昨年度、市ホームページ上で公開しているオープンデータ（地域・年齢別人口など12種類のデータ）について長井警察署様に情報提供させていただいた。また、当市においても、警察署が提供する交通事故データを子ども見守りのデータと掛け合わせて分析を開始している（資料2参照）。引き続き、市保有データを情報をどのように提供できるか検討していきたい。                        |
| 8  | 高齢者の見守りの部分で何か有効な対策はないか。独居の老人、一人歩きに不安がある方などが安心して暮らせるような見守り対策も考えていただけると助かる。                                                                                                  | デジタル技術によって課題解決が見込まれる取り組みがあれば活用を検討しており、令和6年4月には慈光園とも意見交換した。高齢者に常時タグなどを持っていただくことは、運用面及びコスト面で課題が多いため、まずは上記No.5の現状に記載の監視カメラ等によって見守りの強化につなげていきたい。                                                  |
| 9  | ながいコインについて、県内他市町村ではまだ商品券を紙媒体で取り扱っているところも多いが、スマート決済でコストが削減されれば非常に有効。一方、加盟店が165店舗と買い物で使えない店舗がまだ多い印象。加盟店にアンケートをとるなど定点観測を行い、売上増加への繋がりがわかれば加盟店の増加に繋がる。ひいては市内小売店の経済効果が分析できれば面白い。 | 加盟店舗の拡大は引き続き課題となっているため、今後の事業展開の参考にさせていただく。また、令和5年度には、商工会議所が実施するスタンプラリーと連携したことで、ながいコインの利用促進とともに利用者動向の分析につながったため、今後、経済効果を高められるよう有効活用できる施策を検討していきたい。                                             |
| 10 | マイナンバーカードに関する取り組みや、これから展開されていく部分を含めて、再度あやめレポ等での周知をお願いしたい。                                                                                                                  | 令和6年3月にあやめレポを発行し、スマートシティ事業の一部施策の成果やマイナンバーカード活用に関する取り組みについて周知したところ。                                                                                                                            |

## ＜第3回長井市スマートシティ推進協議会で発言のあった意見等の実施状況等＞

資料 1

| No | 主な意見                                                                                                                                                                         | 現状                                                                                                                                                                                                                       |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11 | ながいコインは、市民の利用が多く、今回の物価高騰対策についても利用率は非常に高い。資料にはスマホタイプが40%、カードタイプが60%となっているが、高齢者のスマホタイプ利用率は実際のところ半分程度。スマホタイプ利用をどのように高めていくかが今後の展開に重要と思われる。                                       | 令和6年7月から実施するマイナンバーカードを活用したながいコインへのポイント付与事業(資料5参照)に伴い、スマホタイプの利用促進に向けて、サポートセンターを活用するなど対応していく。高齢者スマホ教室など、市内企業と連携しながら取り組んでいきたい。                                                                                              |
| 12 | 入退所管理システムは、タスパークホテル2Fのコワーキングスペースのように、人が常駐するには少し勿体ないという部分に使えると良い。観光局では、フラワー長井線とくるんとの「一日フリーパス」をアプリで購入できる仕組みが好評。フラワー長井線の電子チケットと図書館利用がマイナンバーカードと紐付され、一気通貫で利用しやすくなると良い。           | 今後の事業展開の参考とさせていただきたい。                                                                                                                                                                                                    |
| 13 | 「小学生・子ども見守り事業」については非常に良い。今年のように猛暑が続くと、放課後、小学校から児童センターに来る子どもたちがふらふらになっている。学校との連携は難しいところがあるが、こうした事業の中で保護者と子ども以外にも、例えば児童センターの職員等、関係者への情報提供があると非常に助かる。                           | リアルタイムでの共有は、現時点ではサービス仕様上保護者にのみ提供可能となっており、第三者開示は運用が煩雑になるため難しい。<br>分析結果を共有することで児童センターに活用いただくことも検討したい。<br>児童センターとしてどのようなデータがあると良いのかをご相談させていただきたい。                                                                           |
| 14 | 高齢者の事業について人手不足が生じているなか、ロボット等のIT技術もあるが、管理系業務にAIを導入することで省力化できると考えている。リスクを考慮しつつ、これからの事業展開に期待したい。                                                                                | 市の介護認定業務へのAI導入は進めており効果が表れているが、市内の福祉事業者へのデジタル技術の導入については、希望に応じてヒアリングさせていただきたい。                                                                                                                                             |
| 15 | スマートロックシステムについて自治公民館にも導入をご検討いただきたい。                                                                                                                                          | 現在のスマートロックシステムは利用登録者に対する施錠権限の付与や一時貸出用ICカードの貸借など、担当者による事務手続きが多数発生するため、職員が常駐するコミセンや市が管理する施設において導入したところ。コスト面での負担も小さくないため、サービス低廉化の状況をみながら、将来的な展開を検討したい。                                                                      |
| 16 | 買い物支援について、1か月程前の山形新聞に、対面販売が高齢者の社会性の維持と健康のために必要という記事が載っていた。担い手の問題があるが、移動販売についても検討の余地はあると思う。住民基本台帳や世帯票から効率的に移動販売できるルートが出せるだろう。                                                 | 過去に伊佐沢地区に移動販売があったが、現在は無くなっているものと承知していたことから、伊佐沢地区にスマートストアを設置した。移動販売も手段の一つとして買い物弱者支援の方法を検討していきたい。                                                                                                                          |
| 17 | マイナンバーカードの健康保険証利用が進めば、抱えている持病の情報が入手でき、心不全や転倒のリスクの高い世帯が把握できる。さらに救急搬送されたことのある疾病データと掛け合わせれば、どの世帯のリスクが高いのかがわかる。SOSはスマホから発信できるといい。緊急警報システムの導入が進まないという話があったので、こうした面でデジタルを活用できると思う。 | 現在は、特定健康診断の結果(高血圧に該当する人の割合、喫煙率など)をデータ分析しており、今後の活用に向けて検討していきたい。                                                                                                                                                           |
| 18 | 認知症の高齢者の徘徊について、県警本部で運営する見守りの通報システムでは、認知症の高齢者に小型端末をいかに持ってもらうかが課題だった。既に民間企業がアクセサリーなどに隠せる超小型GPSを開発しており、これらの活用も検証し、有効であれば進めていただきたい。                                              | 高齢者に常時タグなどを持っていただくことは、運用上、コスト上で課題が多いため、まずは上記No.5の現状に記載の監視カメラ等によって見守りの強化につなげていきたい。                                                                                                                                        |
| 19 | デジタル化は自分で意思表示ができない人ような弱い立場の人にこそ役に立つべき。個人的には、高齢者向けのスマホ教室などがもっとたくさんあれば良い。                                                                                                      | スマホの操作方法に関する教室は、民間の事業者や団体、コミセンなどが主体となり開催されており、市でもコミセンにおけるスマホ教室への講師派遣等を実施している。また、スマートシティ長井実現事業ではサポートセンターを設置し、個別の問合せに対するサポートを行っている。これら官民の取り組みを継続しつつ、効果的にPRしていきたい。また、市としては、ながいコインの展開などをとおして高齢者がスマホを利用する目的づくりに資する施策を進めていきたい。 |